



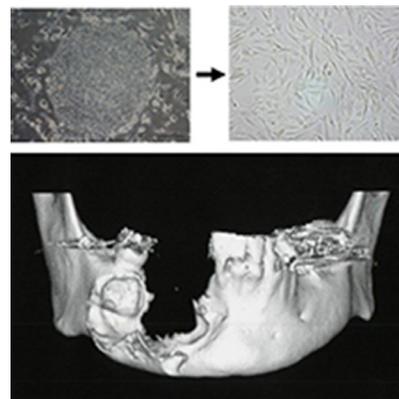
3.8

全ての人人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) を達成する。

橋本 典也
歯学部
歯科理工学講座

iPS 細胞を用いた再生医療の実現で 安全で良質な再生医療の提供を目指す

細胞移植による大型の骨欠損治療の課題である2つの原因、①移植する細胞数の確保と②移植細胞定着の改善をターゲットとした新規大型骨再建法の開発を目的とした研究を行っています。すなわち、大型の骨再建に必須となる、大量の骨芽細胞を理論上、無限の細胞供給源になりうる iPS 細胞から作製し、さらに局所定着細胞数の向上には移植細胞の生存を向上させる新規の移植担体を用いることにより、これまでの細胞移植の問題点を解決し、大型の骨再生を誘導する方法を見出すことを目指しています。iPS 細胞を用いた再生医療を実現化することで、高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く、安価な再生医療を提供することができます。これによりユニバーサル・ヘルス・カバレッジが提供できることになると考えます。



message

口腔顎顔面領域では疾患あるいは損傷などの原因で器官・組織が欠落すると、種々の歯科生体材料を用いて形態ならびに機能の回復を行います。生物学的観点からの研究を基軸として、生体適合性に優れた歯科生体材料の創製や生物学的安全性評価を行うことで SDGs 推進に貢献します。